2 学年通信

平成29年 4 月18日

Breakthrough

No. 1

もう1年たってしまいました

高校入学からもう1年たってしまいました。学習進路部長の宮代先生の進路ガイダンスを受けたのは、昨年(平成28年)の4月8日でした。宮代先生のレジュメには、「**緑高生であることは、何も保証してくれない**」と書いてありました。この学校にいれば大学に合格出来るということは、絶対にありません。ひとり1人が努力しなければ、希望する進路には到達できません。宮代先生は、学習量の確保として、「**学年+2時間を目指そう!**」と話され、最低レベル2時間は、確保しましょうとも言われました。また、「**能動的な学習への転換**」「**習うのではなく、自ら考えて学ぶ姿勢へ**」と学習の質の向上についても説明されました。夏休みまでには、苦手教科の克服することも話されていました。

あれから、1年。3月末に実施した学習リサーチによって、皆さんの実態が明らかになりました。平日の平均学習時間は1時間1分。休日の平均は2時間6分。平日平均で3時間以上と答えた者は、17.3%しかいません。学年プラス2時間どころか、たった1時間。平均ですので、3時間以上の人がいれば、30分も勉強しない人もいるでしょう。学習習慣を身につけずに2年生の生活を始めるのですか。いい加減本気にならないと、手遅れになります。5月7日(日)に河合塾の模擬試験があります。自分の学力をしっかりと認識してください。

人の話は聴くものだ

人に言われた話は、心でかみしめて自分のものにしましょう。

「人を必要とする人は、1番ラッキーな人だ。」神原先生

「授業時間は、全員に公平にあります。公平な時間を、十分に活用してください。」大月先生

「君たちは、いるだけで素晴らしい。」筑内先生

「二兎も三兎も追えます。若者は、自分の限界を作らない。」廣岡先生

「出来ないことを増やす。知らないことを増やす。」吉澤先生

「好きなことがいつ何時、出来なくなるか分からない。今を精一杯生きてください。」諸岡先生
そして、校長先生からは、「行ける大学に行くのではなく行きたい大学に行く。挑戦する人になって欲しい。」また、校長先生が紹介していたお二人の言葉。

「人と比較をして劣っているといても、決して恥ずることではない。けれども、去年の自分と今年の自分とを比較して、もしも今年が劣っているとしたら、それこそ恥ずべきことである。」松下幸之助

「新しい年には、小さなことでいいから、一つずつ自分に課してゆくものをつくり、守ってゆこう。それが「自分らしさ」というものをつくってゆく近道ではないだろうか。」渡辺和子

マリアナ諸島と広島②

できあがった原爆は、物質そのものの質量をエネルギーに変えるという意味でこれまでの爆発物とはまったく異なっていた。その破壊力は異様にまた大きかった。またそこから放出される放射能は人体に強い影響を持っていた。はたしてこのような爆弾を使用していいかどうか、疑問が出されなかったわけではない。開発の中心だった科学者のなかでシラードは、ドイツが原爆をもはや戦争終結までに作れないとの情報を得たときに、この計画の中止を主張し、日本に投下することに反対した。そうした反論はあったものの、それまで日本の行ってきた戦争行為の卑劣さ(真珠湾の奇襲)、捕虜や民間人に対する残虐さなどのために、原爆使用の是非について同情論は比較的早く消えた。おりしも7月26日、米・英・中の三国は、日本に無条件降伏をうながすポツダム宣言を出した。しかし日本はすぐに受諾を表明しなかった。

8月6日、最初の原爆が広島に投下された。その威力は恐るべきものであった。一発の原爆で、7万8千人以上が死亡、1万3千人が行方不明、3万7千人が負傷、都市の半分以上が破壊された。8月9日、二発目の原爆が長崎に投下された。4万人が死亡、4万人が負傷、都市は完全に破壊された。すべては瞬時の出来事だった。いずれも放射能による事後の死者数は含んでいない。

これほどまでに破壊力をもつ超越的な兵器を、いくら日本を降伏させるためだとしても使うべきだったのか?戦後に出した著書の中で当時の陸軍長官スティムソンは、「日本帝国を破壊するだけの力がわれわれにあるという証拠を確信させるほどのショック」を日本に与えねばならなかったのだと語っている。しかし核はアメリカに勝利をもたらしたかも知れないが、それが正しい選択であったかどうかは疑問である。ひとつはアメリカはソ連の参戦前に日本を降伏させたからと言うこともできるし、また通常兵器ではない核を使うのが日本という白人でない民族だからと言うこともできよう。情けない結論しか出せなかったとは言え、国連の国際司法裁判所は1996年、核の使用は、「一般的には国際法、とくに国際人権法に反する」ときわめて曖昧な言い方ながら、ほとんど戦争犯罪に近いところにあることを暗示している。

だが原爆投下についてアメリカを非難する時には、われわれは太平洋戦争を日本が始めたこと、そのうえ日本はアジア各地で戦争犯罪を続けたことをはっきり認識した上で無ければならぬ。たしかに日本は原爆の洗礼を受け、それによって降伏した。原爆のもたらした悲惨は言語を絶するが、そのために日本が奇妙に被害者であるような錯覚が生まれることは警戒しなければならない。

マルクーゼは1956年に出した『エロスと文明』の冒頭で、「産業文明の世界では、いたるところで、人間の人間による支配がその規模と能率を増大している。…強制収容所、大量殺人、世界戦争、さらには原爆は、「野蠻への後退」ではなく、現代の科学、技術および支配の成果を無制限に応用した結果なのである。そうして、人類の物質的、精神的な進歩が、真に自由な世界を生み出すことができるように見えている文明の頂点において、人間の人間による、もっとも効果的な奴隷化と破壊が行われているのである」と書いている。

『戦争論』多木浩二著(岩波新書)

日本への原爆投下は終戦を早め、その後犠牲になったであろう多くの人びとの命を救ったという考えがあります。あなたは、どう思いますか。